

川東見守り隊（鹿屋市）

発表者：吉松 幹男 氏

鹿屋市から参りました吉松と申します。私たちの活動について発表いたします。

1 はじめに

川東町は、鹿屋市の東に位置する集落です。珍しいところでは、旧海軍の飛行場があった所で、零戦が格納されたというコンクリートの掩体壕が、唯一残っています。

世帯数は417世帯で、人口は835人です。

このうち、65歳以上が180世帯の274人で、高齢化率は32.8%です。鹿屋市が28.3%ですので、やや高いこととなります。

産業は、一部に黒毛和牛の大規模畜産農家はおりますが、主に農業が中心です。



2 「川東見守り隊」について

次に、川東見守り隊の発足までの準備というところでお話したいと思います。準備立ち上げの間には、地域住民との「話し合い」と「アンケート調査」を繰り返し実施して、その要求内容と、それに対する可能手段を精査いたしました。



発足は、平成24年11月1日です。今年で満6年が過ぎようとしています。

見守りを行う協力者の数は、26名です。65歳以上が23名、全体の約9割に当たりますので、結果的に「高齢者を中心とした地域貢献活動」が数的には実施されているのではないかと

思っているところです。

見守りの対象者は、現在41名です。原則として独居高齢者で、家族が近くにいない人です。



3 活動内容

活動の基本方針としまして、自分たちができることを、できる範囲で行い、それ以外は、民生委員や町内会へつないでいます。

活動の頻度は、協力者26名がそれぞれ月に2回、見守り活動を行います。しかし、協力者同士は数名重複して見守っていますので、1名の見守られる側からすると、結果的に3～4日に1回は誰かが訪問しているということになります。



さて、活動の詳細ですが、①工夫を凝らした道具（在宅か否かを限定者だけに伝える特殊な用具）を用いた安否の確認 ②話し相手 ③簡易な作業 ④台風防護 ⑤町内の美化運動 ⑥町内会のイベント見学への送迎 ⑦定例会議の開催 ⑧ボランティア活動に関する勉強会を行っています。

台風防護と言いますとちょっと仰々しいですが、雨戸締めとか、一番多いのが飛散物の格納です。家の中に入れてあげたり、過ぎ去ったらまた並べるということをよくやっています。



美化運動については、校区内に通学路がありますので、除草作業や、四季に応じた花を植え付けたりしております。

町内会のイベント見学への送迎では、夏祭りとか、敬老会とか、そば打ち大会とかのイベントの送迎をしております。

定例会議は、3か月に1回、協力者全員が参加をして実施しています。対象者の現況報告です。それと新たに、「あの人は今度はどうでしょうか。見守る側に入れたら？」というような人が出てきますので、その対応を話し合います。



4 課題と対策について

課題ですが、6年間も活動していると、発足当時に比べて、活動に対する意気込みが



低下をし、活動が下火になることです。やはりマンネリ化は否めません。

今から述べることは、少しでもその低下する気持ちのテンションを高く保つための施策の紹介です。

まず、協力者にノルマを課さない（頻度は自己ペースでやる）ということ。

そして、体験談の発表や、他組織の活動例などを交え、連絡会議内容を工夫して、メリハリの効いた会議内容にすること。

次に、協力者への元気度アップポイントの直接還元。

また、協力者の仲間意識の醸成を行うための慰労会の開催と対象者の情報共有。そして最後に、定例会議への関係者の招待です。

慰労会は年に1回の、カラオケあり、余興ありの宴会で、「一人じゃないんだ、皆でやっているんだよ」と、仲間意識を確認しあう目的で開いています。

また、対象者に関する徘徊癖などの情報はみんなで共有することにしてしています。

そして、定例会議へ行政（市役所の担当課）や社協などの関係機関が参加することにより、我々の「活動が外からも注目されているんだ」ということを協力者に認識させ、更なる自覚を促すようにしてしています。

5 おわりに

昔、「男は黙ってサッポロビール」というテレビコマーシャルがあり、私はこれを「寡黙で人知れず頑張っている人」「意思の強い人」と解釈しております。

「目立たないけど黙って頑張る」、これこそボランティアの精神ではないかと思います。



ですから、やはり自分自身が納得して、自分の「人となり」とか「自分力」を養って得られた「充実感」「満足感」が、この運動の活動源じゃないかと思うわけです。

また、もうひとつ「ボランティアと言えども責任はあるんだ!」ということも我々は、その言葉の内容を大事にしています。「このようにやりますから」と言って始めたのにそのようにやらなければ、やはり裏切ったことになると思いますので、無責任なことにならないように気をつけています。

実は今回、なぜ私たちが表彰に値するのかと、一瞬戸惑いましたけれども、お聞きのと



おり、特段なことはしていないからです。でも、パフォーマンスや、目立つ行動ではなく、コツコツと、力まないで、地道に活動しようとしていることだけは正直な気持ちです。

今回、身に余る賞をいただきましたので、いやが応にも意欲と、自覚がリフレッシュできました。

でも、ここで「頑張ろう」と力むのではなく、いつもの様に力を抜いて、淡々と「男は黙ってサッポロビール」という気概で、これを今度は「男も女も 爺しも 婆ばも 黙ってサッポロビール」という風に 読み替えて、ずっとずっと続けていきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。